

授業科目（ナンバリング）	医薬品情報論（NF329） （実践的教育科目）			担当教員	大磯 茂・室 高広 （実務経験のある教員）		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>臨床上の問題解決に有用な医薬品情報を患者や他の医療従事者に適切に伝えることができるようになるために、医薬品情報の種類や特徴、情報収集、評価、加工、提供、管理に関する基本的な知識、技能、態度を修得する。</p>							①⑥⑧⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<p>医薬品適正使用に必要な情報や制度について説明できる。</p> <p>医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。</p> <p>医薬品情報源を列挙し、それらの特徴について説明できる。</p> <p>薬剤疫学および薬剤経済学について説明できる。</p> <p>医薬品情報を加工・提供における注意点について説明できる。</p>				<p>・定期試験</p> <p>・小テスト</p> <p>・宿題</p> <p>（予習・復習）</p>	<p>60%</p> <p>20%</p> <p>4%</p>	
情報収集、分析力	<p>臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）を算出しその意味を判別できる。</p> <p>情報提供システム等から必要な医薬品情報を検索する方法について説明でき、さらにそれらを手に入れる。</p>				<p>・定期試験</p> <p>・宿題</p> <p>（予習・復習）</p>	<p>5%</p> <p>2%</p>	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	<p>EBM 実践の手順について説明できる。</p> <p>医療従事者や患者に必要な医薬品情報を適切に加工できる。</p>				<p>・定期試験</p> <p>・宿題</p> <p>（予習・復習）</p>	<p>5%</p> <p>4%</p>	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>上記評価比率に従い評価します。第 5 および 13 講目終了後にそれまでの授業内容に関係する小テストを実施します。また、予習・復習を促すために宿題としてポートフォリオ上で演習を行い、その成績も最終評価に加えます。小テストおよび宿題（予習・復習）は、各問題の解答を示すことによりフィードバックを行います。</p>							
授業の概要							
<p>薬剤師の実務経験のある教員が、薬剤師の業務遂行に必要な医薬品情報の基礎知識を説明します。薬物治療に必要な情報を医療従事者および患者に提供できるようになるために、医薬品情報の種類や特徴、情報の収集、評価、加工、提供および管理方法に関する基本的知識・技能・態度の習得を目標とします。また、臨床上の疑問を解決する手段である Evidence-Based Medicine (EBM) の基礎や薬剤疫学について理解することも目標とします。授業は教科書による講義を中心とし、パワーポイントや別途配布するプリント等を用います。ポートフォリオを活用した演習も行います。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、112.5 分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：医薬品情報学【第 5 版】または【第 4 版補訂版】（東京大学出版会）、一部プリントを配布する。</p> <p>参考書：図解 医薬品情報学（南山堂）、医薬品情報・評価学（南江堂）</p> <p>指定図書：教科書と同じ</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>教科書および配布プリント等を利用して予習・復習をしっかりとってください。医薬品に関する報道に関心を持ってください。また、多くの医薬品情報はインターネットで閲覧できるので、積極的に検索して、多くの医薬品情報に触れてください。講義内容に関する質問は、担当教員（大磯：P310、室：P302）を訪ねてください。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	・医薬品情報とは	医薬品情報を活かした医薬品適正使用およびリスクマネジメントについて説明する。(大磯)	教科書 まえがき、第1章	21, 90, 758
2	・医薬品開発の流れ ・医薬品開発制度	医薬品開発の流れおよびそれらに関連する薬事関連制度を説明する。(大磯)	教科書 第2章、第14章、 第16章、第19章、 第20章	38, 39, 82-83, 592, 760, 762, 785, 790, 792
3	・市販後の調査 ・医薬品の市販後調査制度	医薬品開発時の情報とその限界、製造販売後調査(PMS)の意義、安全性情報の収集の制度を説明する。(室)	教科書 第3章、第14章、 第15章、第16章、 第20章	85, 90, 592, 761-762
4	・医薬品情報源の種類と特徴	各種医薬品の添付文書、インタビューフォーム、安全性情報などの医薬品情報源の特徴、中毒、妊婦への影響などの情報源について説明する。 医薬品情報検索のプロセス、医学・薬学文献データベース等による医薬品情報の検索・収集やセンサーラスなど医薬品情報の検索・収集に必要な基本的事項について説明する。(室)	教科書 第4章、第5章、 第15章、第16章、 第17章、第18章	759, 765-768, 769-770
5	・医薬品情報検索・収集法の基礎			
6	・医薬品情報の評価	一次資料の評価を行うための批判的吟味の指標および評価の観点について説明する。(大磯)	教科書 第6章、第8章、 第9章	763-764, 786, 769-773, 775-776, 784
7				
8				
9	・生物統計の基礎	臨床研究情報を評価する際に必要となる生物統計の基本的事項について説明する。(大磯)	教科書 第6章、第8章、 第9章	775, 778-783, 785, 786, 789, 791, 793
10				
11	・EBM実践の基礎 ・臨床研究デザインと薬剤疫学の実践	EBMの考え方、EBM実践のステップならびにEBM実践で用いられる診療ガイドラインやメタアナリシスについて説明する。 薬剤疫学研究の臨床研究デザインの種類やその特徴と配慮すべきポイントについて解説する(室)	教科書 第9章、第10章	775, 777, 785, 787-788, 790, 792,
12				
13	・薬剤経済学の実践	薬剤経済学の考え方、分析手法、費用の種類と分析視点、分析のためのデータ収集・研究デザインについて説明する。(大磯)	教科書 第11章	105, 774, 796
14	・医薬品情報の加工・再構築および提供	病院および薬局における医薬品情報の加工、新たな医薬品情報の再構築および提供の方法について説明する。(室)	教科書 第7章、第12章、 第13章	773, 794-796
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえ、医薬品情報の検索・加工等を実践する。(大磯、室)	これまでの内容を復習しておくこと。	795, 796, 993,
16	定期試験			

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

\*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。